

ね や こ
寝屋子 海から生まれた家族

企画・製作 民族文化映像研究所
1994年作品 / 57分 / 16mmフィルム / 三重県鳥羽市答志島

- 映画のご案内 -

映画「寝屋子 - 海から生まれた家族」は、1980年(昭和55年)から1994年(平成6年)まで、14年間にわたって続けられた三重県鳥羽市・答志島の「寝屋子」の記録をまとめたものです。

「寝屋子」は伝統的な若者宿の一つで、答志で生まれ育った男子は、中学校を卒業した年、数人一組になって、寝屋親と呼ばれる人の家を宿にして共同生活に入ります。その生活は、少年期から青年期にかけての10余年間にわたって続き、寝屋子の中の誰かが結婚する機に、寝屋子組は解散します。

寝屋親は、寝屋子たちの実の親ではありません。けれども、漁業技術をはじめ、日常的な悩みごとなど、寝屋子たちの相談相手となって世話をします。そして、そこで培われた寝屋子同士、寝屋子と寝屋親との人間的絆は、実の兄弟、親子のそれよりも強く、しかも生涯変わることなく続きます。

日本の伝統的若者宿制度は、1960年代にはじまる高度経済成長期に急速に消えていきました。映画は、通称「辰吉寝屋子」の、はじまりから解散までの足取りを追いつつ、寝屋子制度とはどういうものなのか、なぜそれが伊勢湾口に浮ぶ離島・答志島で今日もなお生き続けているのかを探ります。

家族の意味、あり方が問い直されている今、この映画が、それを考えるひとつの手がかりたりうことを願っております。

1994年11月 民族文化映像研究所 所長 姫田忠義

- あらすじ -

伊勢湾口に浮ぶ島、^{とよし}答志島。この記録フィルムは、この島の答志集落に伝えられている日本で唯一の伝統的若者宿の制度(ここでは「寝屋子」と呼ぶ)を、1980年3月から1994年秋までの14年余りをかけて記録し、それをまとめたものである。

伝統的な若者宿は、かつて日本の各地で見られる制度であった。しかし第二次世界大戦後、特に1960年代に急速に消滅していった。答志の寝屋子は、その激動する時代をくぐりぬけて生き続けている唯一のものである。

答志は、海に依存し、漁業に生きる町である。なぜこの地に、伝統的若者宿の制度が、生き続けているのであろうか。

答志では、中学校を卒業した男子は、数人のグループをつくり、寝屋親を選び、自分たちの宿を引き受けてくれるように頼んでもらう。そして10数年、起居をともにする共同生活をし、最初の結婚者が出るとそれを機にその寝屋子組は解散する。血気盛んな時期の共同生活である。実の兄弟以上に強い人間的結びつきが寝屋子たちに生まれ、また寝屋親とは実の親とはまた違った強い結びつきが生まれる。そしてそれは生涯変わることはない。

寝屋親には、たいてい30歳代後半から40歳代前半の人になる。自分の両親や子どもがいる。子どもはまだ小さい。さらにそこに数人の他人の子どもを引き受けなければならないのである。「ここが漁業で生き続けるかぎり、寝屋子はなくなる。」と、この記録で追いつけた、通称「辰吉寝屋子」の山下正弥さんは言った。「わしらは漁師。海の仕事には危険がつきまとう。助け合わなければならない。寝屋子はその助け合いの制度だ。」そうも言った。この記録は、辰吉寝屋子14年の記録でもある。

【スタッフ】 姫田忠義 小泉修吉 伊藤碩男 澤幡正範 小原信之 岩田まき子
青原慧水 柴田昌平 吉野奈保子 長尾和紀 姫田蘭 吉村 朝之
【題 字】 新郷笙子
【ネガ編】 中根信也 【録音】 東京テレビセンター 【現像】 ヨコシネディーアイエー
【協力】 名古屋テレビ 【助成】 芸術文化振興基金